

海賊対策の強化に向けた提言 参考資料

2011年10月18日
(社)日本経済団体連合会

アデン湾・ペルシャ湾と日本を結ぶシーレーン

- アデン湾: スエズ運河経由でアジア・欧州を結ぶ海上輸送の要衝
非常に広大(長さ約900km、最大幅約400km)で海賊対策が講じにくい
- ペルシャ湾: 原油やLNG等、日本のエネルギー資源輸送の重要な海上交通路
原油総輸入量の88%はペルシャ湾を經由して輸入



ソマリアの海賊の実態

ロケットランチャーを装備する海賊



写真:国際海事機関(IMO)



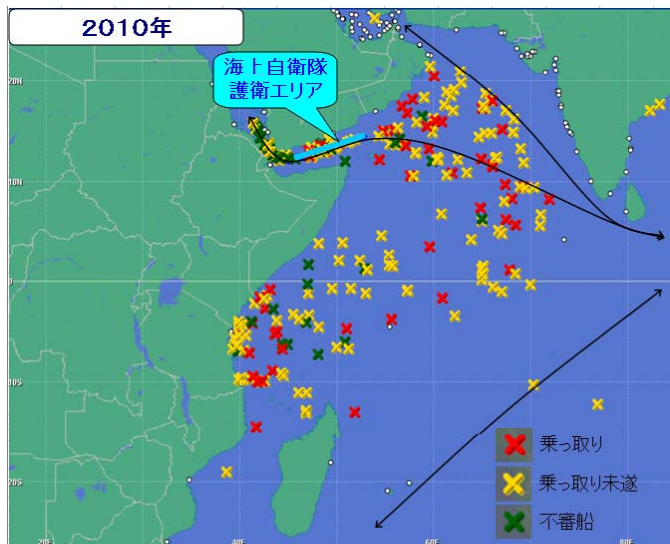
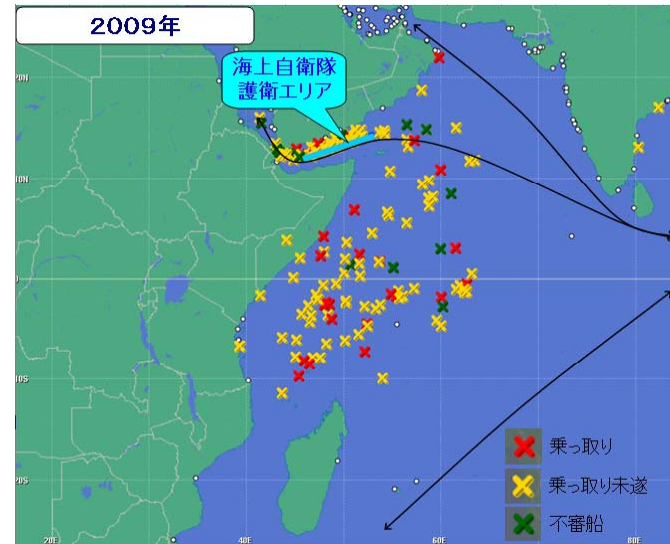
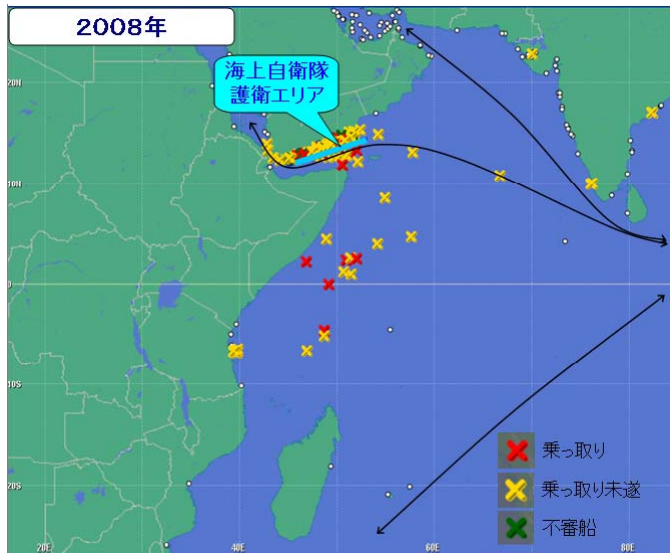
海賊が利用する母船
(この船舶でアデン湾内を移動している)



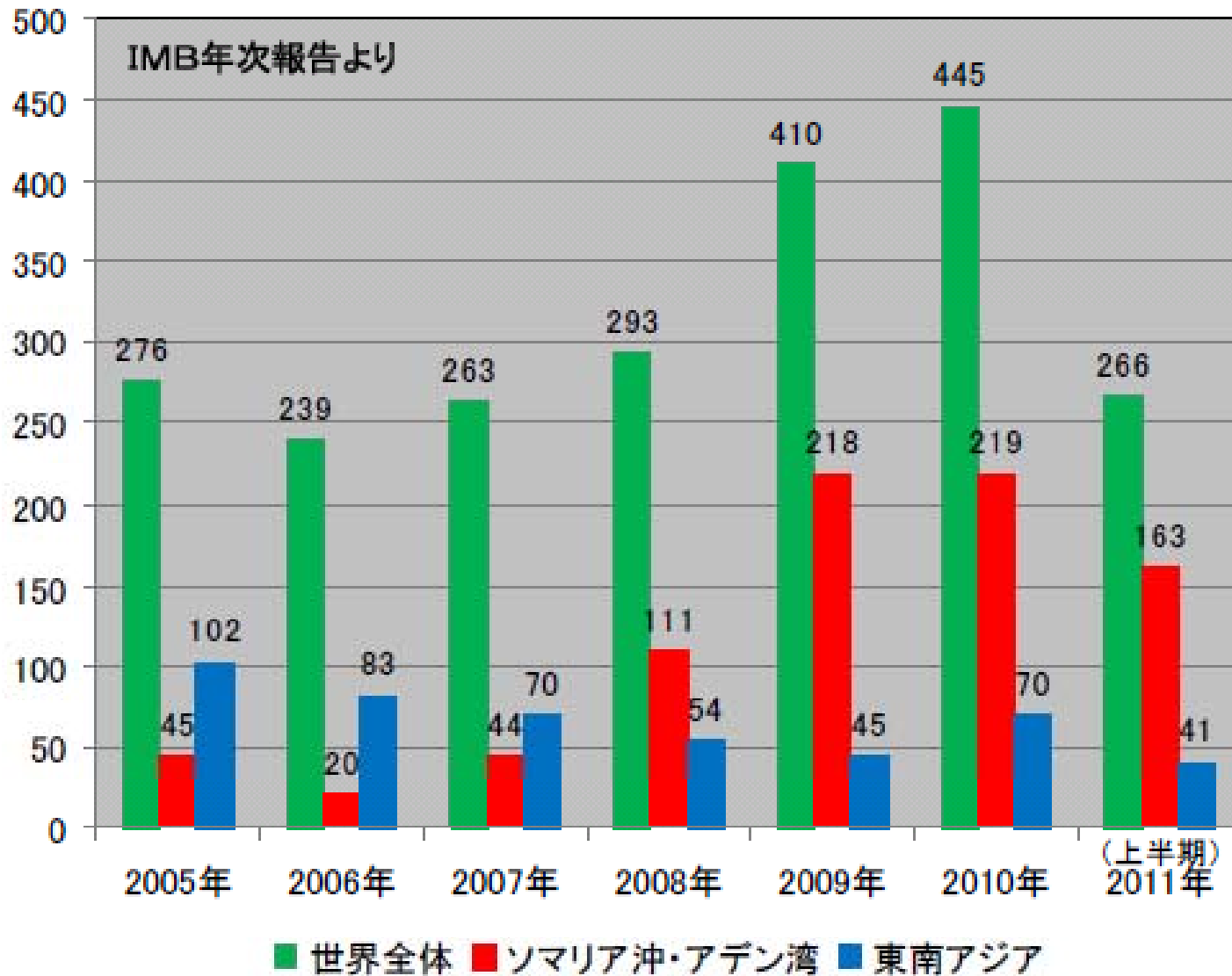
襲撃時に使用される小型船

写真:BBC等

海賊の発生海域のインド洋への拡大(2008年～2011年)



世界の海賊事件発生件数の推移



出典：国際海事局(IMB)資料

海賊対処に関する取組み(2011年6月時点)

表1: 艦船の派遣状況

護衛艦隊	派遣国	隻数
NATO	米国(2隻)、オランダ、デンマーク、トルコ	5
EU	フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ギリシャ、ポルトガル	6
CTF-151	米国(2隻)、トルコ、シンガポール、韓国、イギリス (艦船は日々入れ替わるため詳細は不明)	6
各国(独自派遣)	日本	2
	米国	1
	ロシア	3
	インド	1
	中国	3
	韓国	1
	オーストラリア	1
	マレーシア	1
	イラン	2
サウジアラビア	1	
合計		33

表2: 哨戒機の派遣状況

派遣国	機数
日本(2機)、ドイツ、フランス、米国、オーストラリア、スペイン、シンガポール、スウェーデン	9

アデン湾における自衛隊による海賊対処活動

